

2025年度

日本健康医療専門学校

シラバス （講義概要）

鍼灸学科

3年生

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
社会科学 2		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
上本 昌昭		2単位	30時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
あはき師は、施術を通じて患者のQOLの向上や社会復帰の実現を図る職種である。この点で、あはき師は、患者の「医療」と「福祉」に携わる。そして、この「医療」と「福祉」は社会保障制度として提供され、それにかかる費用は「社会保険」を通じて賄われる。社会保険は日本国憲法25条の理念に基づき提供され、個人の疾病、老齢、失業、労働災害などのリスクに対し、それを社会全体で助け合う仕組みである。したがって、「医療」と「福祉」に携わるあはき師にとって、医療、年金、介護、雇用、労災といった社会保険制度の基本的な仕組みを理解することは不可欠であるといえる。				
〈到達目標〉				
・保険者、被保険者、保険事故、保険給付、保険料、負担金など、社会保険制度の基本概念を説明できる。 ・医療、年金、介護、雇用、労災に関する各種保険の仕組みについて説明できる。 ・あはき師としての職務を遂行する際に、患者のニーズに対して、社会保険を通じた助言を提供できるようになる。				
2 授業内容				
第1回	科目ガイダンス/社会保険制度とは何か社会「医療」制度と社会「保険」制度の関係、社会保険制度の基本的な仕組みについて理解する。			
第2回	健康保険・公的医療保険の基本的な仕組み、公的医療保険の種類、あはき師の保険利用手続きについて理解する。			
第3回	介護保険が国の人口動態、介護保険の基本的な仕組み、成年後見制度、介護保険と老人福祉の関係について理解する。			
第4回	労働保険多様な雇用形態をふまえた上で雇用保険について、疾病と労働災害の違いをふまえた上で労働者災害補償保険について理解する。			
第5回	健康保険の問題演習①公的医療保険の問題演習を通じてその内容を確認し、公的医療保険の基本的な仕組みについて理解する。			
第6回	健康保険の問題演習②公的医療保険と民間の医療保険との違い、あはき師の保険利用手続きについて確認する。			
第7回	介護保険の問題演習①介護保険の問題演習を通じてその内容を確認し、介護保険の基本的な仕組みについて理解する。			
第8回	労働保険の問題演習①雇用保険と労働者災害補償保険の問題演習を通じてその内容を確認し、労働保険の基本的な仕組みについて理解する。			
第9回	科目のまとめこれまで学習した内容を振り返り、全体像をイメージする。			
3 履修上の注意				
授業ではメモの労はいとわず、配布したレジュメ・資料は整理して、授業後に見直せるようにしておくこと。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
各授業の内容が想起できる程度になるまで振り返る。その上で、授業で解いた問題は確実に解答できるように解き直しておくといふ。				
5 教科書				
教科書は指定しない。各回レジュメを配布する。				
6 参考書				
特になし。				
7 成績評価の方法				
各回の授業で確認テストを実施する。成績は、確認テストの合計点と「課題」の点数を合算して評価する。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
大学や専門学校で基礎法学、社会保障制度の教育に携わり、権利保障や紛争処理の仕組みについて研究する。				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	鍼灸院の実務経験 中学・高校の部活動のトレーナーの実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床医学総論 2		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
町田 良太		1単位	30時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
本講義では、医療従事者として必要な西洋医学的身体診察及び治療に関する医学的知識、技能に関して学習する。この時間では身体診察の中でも、鍼灸臨床で関わりが多い運動麻痺や筋肉の異常、起立と歩行などの運動機能異常について深く学習する。				
〈到達目標〉				
関節可動域検査や徒手筋力検査などは実際に鍼灸臨床でも実施頻度が高い検査となるため、その知識と技術を身に付けることも本講義の重要な目的となる。				
2 授業内容				
第1回	局所の診察			
第2回	局所の診察			
第3回	局所の診察			
第4回	局所の診察			
第5回	局所の診察			
第6回	局所の診察			
第7回	運動機能検査			
第8回	運動機能検査			
第9回	運動機能検査			
第10回	運動機能検査			
第11回	検査法			
第12回	検査法			
第13回	問題演習・復習			
第14回	問題演習・復習			
第15回	試験解説			
3 履修上の注意				
居眠り等せず、積極的に参加すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業内容をしっかり理解する目的で予習を行い、授業内容をしっかり定着させる目的で復習を行うこと				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
定期試験で60％以上の得点が単位認定の条件となる。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	鍼灸院の臨床経験、訪問治療、スポーツトレーナーの実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床医学各論 3		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
鈴木 誠		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
超高齢社会の到来、生活習慣病の増加などを受けて疾病構造が複雑化かつ多様化している現代社会において、鍼灸医学に対する期待も大きくなっている中で、はり師きゅう師が西洋医学的観点から臨床医学の知識を身に付けることは重大な意義を持つ。				
〈到達目標〉				
感染症、内分泌疾患、代謝栄養疾患、血液・造血器疾患、膠原病リウマチ性疾患などの疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療およびその予後について医療従事者に必要な基礎知識を修得し、実際の臨床において適切な患者対応が出来る				
2 授業内容				
第1回	ガイダンス	第16回	代謝・栄養疾患（3）	
第2回	感染症	第17回	代謝・栄養疾患（4）	
第3回	感染症	第18回	代謝・栄養疾患（5）	
第4回	感染症	第19回	代謝・栄養疾患 総復習	
第5回	感染症	第20回	血液・造血器疾患（1）	
第6回	感染症	第21回	血液・造血器疾患（2）	
第7回	感染症 総復習	第22回	血液・造血器疾患（3）	
第8回	内分泌疾患（1）下垂体疾患	第23回	血液・造血器疾患（4）	
第9回	内分泌疾患（2）甲状腺疾患	第24回	血液・造血器疾患 総復習	
第10回	内分泌疾患（3）副腎疾患	第25回	膠原病（1）	
第11回	内分泌疾患（4）副腎疾患	第26回	膠原病（2）	
第12回	内分泌疾患 総復習	第27回	膠原病（3）	
第13回	代謝・栄養疾患（1）	第28回	膠原病（4）	
第14回	代謝・栄養疾患（2）	第29回	総復習	
第15回	定期試験1	第30回	定期試験2	
3 履修上の注意				
学則に従い受講すること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
前回の授業内容の復習をすること。				
5 教科書				
「臨床医学各論 第2版」 東洋療法学校協会編 （医歯薬出版株式会社）				
6 参考書				
「臨床医学総論 第2版」 東洋療法学校協会編 （医歯薬出版株式会社）				
7 成績評価の方法				
①定期試験1と定期試験2それぞれで60％以上を合格とする。				
②3年次で課される全ての提出物を提出することで試験の受験を認める。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	開業鍼灸師の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床医学各論 4		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
野口 智立		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
超高齢社会の到来、生活習慣病の増加などを受けて疾病構造が複雑化かつ多様化している現代社会において、鍼灸医学に対する期待も大きくなっている中で、はり師きゅう師が西洋医学的観点から臨床医学の知識を身に付けることは重大な意義を持つ。この講義では、疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療およびその予後について医療従事者に必要な基礎知識を修得する。				
〈到達目標〉				
鍼灸臨床で遭遇しうる疾患の知識を持ち、症状、原因、予後等の説明ができるようにする。				
2 授業内容				
第1回	循環器疾患①	第16回	神経疾患⑤	
第2回	循環器疾患②	第17回	神経疾患⑥	
第3回	循環器疾患③	第18回	神経疾患⑦	
第4回	循環器疾患④	第19回	神経疾患⑧	
第5回	循環器疾患⑤	第20回	神経疾患⑨	
第6回	循環器疾患⑥	第21回	神経疾患⑩	
第7回	循環器疾患⑦	第22回	その他の領域①（麻酔科）	
第8回	循環器疾患⑧	第23回	その他の領域②（麻酔科）	
第9回	循環器疾患⑨	第24回	その他の領域③（婦人科疾患）	
第10回	循環器疾患⑩	第25回	その他の領域④（皮膚科疾患）	
第11回	神経疾患①	第26回	その他の領域⑤（眼科疾患）	
第12回	神経疾患②	第27回	その他の領域⑥（耳鼻科疾患）	
第13回	神経疾患③	第28回	その他の領域⑦（精神科疾患）	
第14回	定期試験1	第29回	その他の領域⑧（心療内科）	
第15回	神経疾患④	第30回	定期試験2	
3 履修上の注意				
他科目の復習も含めて真剣に取り組むこと。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
該当する分野の解剖学、生理学は各自で復習をして授業に臨むこと。				
5 教科書				
臨床医学各論 第2版 医歯薬出版株式会社				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
筆記試験（定期試験で60％以上の得点が単位認定の条件となる。）				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
2010年鍼灸教員免許取得				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	鍼灸整骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
リハビリテーション医学		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
金 世野		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
リハビリテーションとは「人間らしく生きる権利の復活」という意味である。そのために運動機能や日常生活活動の障害を回復に導き、社会や環境への適応を促すための知識・技術がリハビリテーション医学である。 超高齢社会を迎えた日本社会において、今後ますます慢性疾患、特に運動器系の障害や機能低下を抱える患者が増えることが予想される中で、鍼灸師が今後の医療・介護の現場で活躍する人材となるために、リハビリテーション医学の知識・技術について学ぶ。				
〈到達目標〉				
この時間ではリハビリテーションの理念や障害の捉え方、脳血管障害や脊髄損傷など代表的な疾患のリハビリテーションについて学び、鍼灸臨床に活かせる知識・技術を習得する。				
2 授業内容				
第1回	リハビリテーションと障害	第16回	脊髄損傷のリハビリテーション	
第2回	リハビリテーション医学と医療	第17回	脊髄損傷のリハビリテーション	
第3回	障害の評価	第18回	脊髄損傷・切断のリハビリテーション	
第4回	活動の評価、合併症の評価、運動麻痺の評価	第19回	小児のリハビリテーション	
第5回	運動年齢テスト、失行失認テスト、心理的評価	第20回	骨関節疾患のリハビリテーション	
第6回	医学的リハビリテーション	第21回	骨関節疾患のリハビリテーション	
第7回	理学療法（運動療法）	第22回	関節リウマチのリハビリテーション	
第8回	理学療法（物理療法）、作業療法、言語聴覚療法	第23回	関節リウマチのリハビリテーション	
第9回	補装具	第24回	末梢神経障害のリハビリテーション	
第10回	補装具	第25回	パーキンソン病のリハビリテーション	
第11回	脳卒中のリハビリテーション	第26回	呼吸器疾患のリハビリテーション	
第12回	脳卒中のリハビリテーション	第27回	心疾患のリハビリテーション	
第13回	脳卒中のリハビリテーション	第28回	運動学	
第14回	復習	第29回	運動学	
第15回	定期試験1	第30回	定期試験2	
3 履修上の注意				
国家試験対策も兼ねている為、居眠りなどせず積極的に参加すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業日程に沿って当該項目の内容を予習すること。授業中は配布したプリントの穴埋めに記入し、要点を見直し出来るようにすること。				
5 教科書				
リハビリテーション医学（医歯薬出版株式会社）				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
定期試験 1 および定期試験 2 それぞれ60％以上の成績と小テストの結果も考慮して単位を認める。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
医療概論		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
高松 巧		1単位	15時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
医療・医学を、歴史・論理・倫理の点から考えることにより、鍼灸師をめざすにあたって、「医療」というものを根本から考え、鍼灸行う目的や、患者に対する態度など自ら考えられるようになり、鍼灸師としてよりよい対応ができるようにすることを目的とする。				
〈到達目標〉				
この講義では、医療・医学の歴史の概要を理解し、現代社会において、西欧近代医学と東洋医学が提示する論理について、またその論理と現実との間で生じる問題を、相互に関連させながら考えることが出来るようにすることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	ガイダンス			
第2回	現代の医学と医療			
第3回	近代医学の課題			
第4回	先端医療			
第5回	東洋医学			
第6回	現代の医学と医療			
第7回	医療と医療経済			
第8回	医療保険の仕組み			
第9回	老人福祉法			
第10回	医療従事者の倫理			
3 履修上の注意				
学則に従い受講すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
5 教科書				
医療概論				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
筆記試験				
6割以上の得点が、単位認定の条件となる。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念	開業鍼灸師の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
関係法規		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
野口 智立		1単位	15時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律と、その他の医事福祉法規を理解することにより、はり師・きゅう師として適正に法律を遵守し、業務を遂行できるようにすることを目的とする。				
〈到達目標〉				
この講義では、①あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律②その他の関係法規を正しく理解することを目標に学習する。				
2 授業内容				
第1回	オリエンテーション、法の意義、法の体系			
第2回	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律（免許）			
第3回	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律（業務）			
第4回	医療法・医師法			
第5回	その他医療従事者に関する法律・薬機法			
第6回	衛生関係法規・社会福祉関係法規			
第7回	社会保険関係法規・個人情報保護法			
第8回	最終評価			
3 履修上の注意				
学則に従い受講すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
教科書付録のあはき法条文を熟読すること				
5 教科書				
関係法規 〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
筆記試験で60％以上の得点を合格とする				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
2010年鍼灸教員免許取得				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念	鍼灸院院長の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
社会保障制度・職業倫理		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
山元 大樹		1単位	15時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
医療保険に関わるはり師・きゅう師の立場として、わが国の社会保障制度を理解することは不可欠である。また、医の倫理、インフォームドコンセントなどを患者に対応する立場として理解することも必要である。この講義では、はり師・きゅう師が関わる医療保険をはじめとする社会保障制度を理解し、医の倫理をとその考え方の変遷を理解し、現代の臨床での具体的な事由などを取り上げて、理解し実践出来ることを目標に学習する。				
〈到達目標〉				
社会保険制度を理解し、医療保険を業務で適正に利用することが出来るようにすること、また医療保険以外でも患者に適切な指示や助言が出来るようすることを目標とする。職業倫理に関しては、はり師・きゅう師として必要な職業倫理を理解し実践することが出来るようにする。				
2 授業内容				
第1回	4つの働き方			
第2回	社会保険①			
第3回	社会保険②			
第4回	医療倫理の成り立ち			
第5回	インフォームドコンセント			
第6回	まとめ			
3 履修上の注意				
出席と授業態度が重要であるため、休まずに出席し授業には集中して臨むこと。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
日本の社会保障制度について事前に調べておくこと。				
5 教科書				
授業の際にプリントを配布する。				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
筆記試験（定期試験）にて60％を合格とする。				
小テスト、レポートがあった場合その得点を成績に加味する。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	基礎はり学、基礎きゅう学	大学病院付属鍼灸センターの実務経験、 訪問治療の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
はりきゅう理論 2		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
菅谷 匡美		2単位	40時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
鍼灸刺激が人体に与える影響について、生理学（感覚受容器・神経線維・脊髄内伝導路など）の側面から、様々な研究結果を通して学ぶ。				
〈到達目標〉				
鍼灸師として必要な、鍼灸治療の治効理論を身につけ、臨床において患者に説明できる事を目標とする。				
2 授業内容				
第1回	第8章 生体の調節 運動系の調節	第16回	第9章リラクセーションと鍼灸、生体防御系と鍼灸 第10章 刺激部位、刺激入力 第10章 刺激入力、鍼灸刺激による治効機序 第10章 鍼灸刺激による治効機序 定期試験2	
第2回	第8章 生体の調節 内臓系の調節	第17回		
第3回	第8章 感覚 総論、感覚線維	第18回		
第4回	第8章 感覚 脊髄伝導路、痛覚、侵害受容器	第19回		
第5回	第8章 感覚 内因性発痛物質、伝導路、温度覚	第20回		
第6回	第8章 感覚 触圧覚 、熱傷(炎症)			
第7回	第8章 感覚 体表の反応 第9章 鍼鎮痛			
第8回	第9章 鍼鎮痛 下行性痛覚抑制系、DNIC			
第9回	第9章 鍼鎮痛 脊髄分節性鎮痛、末梢性鎮痛			
第10回	定期試験1			
第11回	第9章 鍼灸治効機序 鍼鎮痛個人差、軸索反射			
第12回	第9章 鍼灸治効機序 軸索反射、筋循環と鍼			
第13回	第9章 循環系と鍼 筋循環と鍼、心拍数			
第14回	第9章 運動系と鍼 消化器系と鍼			
第15回	第9章 消化器系と鍼、泌尿器系と鍼			
3 履修上の注意				
私語は慎む。携帯電話や飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
前回の講義の復習を行うこと。				
5 教科書				
6 参考書				
生理学 第3版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
7 成績評価の方法				
定期試験 1 および定期試験 2 それぞれ60％以上の成績を合格とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	社会はり学、社会きゅう学	鍼灸院院長の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
社会はりきゅう論 1		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
山元 大樹		1単位	15時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
社会保障政策の改革や社会構造そのものが大きく変化する昨今、鍼灸師を取り巻く環境も大きく変化した。今後の鍼灸の発展、質の向上をはかるために、鍼灸師としてのニーズを把握するとともに、現代社会における鍼灸師の役割を考え、社会環境の変化に対応できるような鍼灸師を目指すことを目的とする。				
〈到達目標〉				
この講義では、現代社会における医療制度の現状を理解すること、また、地域医療について理解し、鍼灸師として地域で期待される業務を理解することを目指すことを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	経営を考えてみる①			
第2回	経営を考えてみる②			
第3回	経営を考えてみる③			
第4回	経営を考えてみる④			
第5回	経営を考えてみる⑤			
3 履修上の注意				
学則に従い受講すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
5 教科書				
社会あはき学 〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
レポート提出				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	社会はり学、社会きゅう学	臨床の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
社会はりきゅう論 2		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
山元 大樹		1単位	15時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
社会保障政策の改革や社会構造そのものが大きく変化する昨今、鍼灸師を取り巻く環境も大きく変化した。今後の鍼灸の発展、質の向上をはかるために、鍼灸師としてのニーズを把握するとともに、現代社会における鍼灸師の役割を考え、社会環境の変化に対応できるような鍼灸師を目指すことを目的とする。				
〈到達目標〉				
この講義では、自らのキャリアビジョンを明確にすることで興味関心のある鍼灸分野を明確にする。				
2 授業内容				
第1回	臨床で大切なことを考えてみる①			
第2回	臨床で大切なことを考えてみる②			
第3回	臨床で大切なことを考えてみる③			
第4回	臨床で大切なことを考えてみる④			
第5回	臨床で大切なことを考えてみる⑤			
3 履修上の注意				
学則に従い受講すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
レポート提出				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	実習	鍼灸院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
はりきゅう実技3A		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
阿部 好史		2単位	60時間	実技
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
基礎実技および応用実技で培った技術をもとに、鍼灸臨床で遭遇しやすい頸腕痛、肩関節痛、腰下肢痛、膝関節痛、スポーツ障害などの整形外科疾患や頭痛、腹痛、眩暈、疲労倦怠といった主要症候の治療方法について、その治療穴や鍼法・灸法を疾患別に学習する。				
〈到達目標〉				
筋膜の繋がり、経筋の繋がり、神経的なアプローチ、皮膚へのアプローチや筋トリガーポイント療法など様々な繋がりを学び東西医学のジャンルを越え鍼灸医術を体得し、卒業後の鍼灸臨床で実践できる治療技術を身に付けることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	ガイダンス 体の繋がりを知る/肩こり説明	第16回	頸回旋痛	
第2回	肩こり	第17回	頸回旋痛	
第3回	肩こり	第18回	手腱鞘炎	
第4回	腰痛①（椎間関節性腰痛）	第19回	変形性膝関節症	
第5回	腰痛②（胸腰筋膜性）	第20回	変形性膝関節症	
第6回	腰痛③（筋筋膜性）	第21回	三叉神経痛	
第7回	腰痛④（筋筋膜性②）	第22回	大後頭神経痛／GOTS	
第8回	腰痛⑤（筋筋膜性）	第23回	耳鳴り難聴	
第9回	腰下肢痛	第24回	耳鳴り難聴	
第10回	腰下肢痛	第25回	肋間神経痛	
第11回	肩関節周囲炎	第26回	肋間神経痛	
第12回	肩関節周囲炎	第27回	橈骨神経麻痺	
第13回	実技試験	第28回	実技試験	
第14回	実技試験	第29回	実技試験	
第15回	足根洞症候群	第30回	総復習	
3 履修上の注意				
・ 指の感覚で学ぶ・ 指示された事以外の施術は禁止・ 患者役は練習相手である事を忘れずに！ ・ 互いの良かった部分を伸ばしあうこと				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
5 教科書				
配布資料				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
実技試験の点数（口頭試問込み）に出席点を加味				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
開業鍼灸師				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	実習	鍼灸院の実務経験 スポーツトレーナーの実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
はりきゅう実技3B		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
鈴木 誠		2単位	60時間	実技
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
日本の鍼灸医学界には様々な流派・治療法が存在している。この時間では日本で行われている鍼灸治療や各流派の治療法について、その独自の考え方や特徴、取穴法や鍼法・灸法といった実技について学んでいく。				
〈到達目標〉				
美容鍼灸や婦人科疾患などにも対応できるよう、幅広い治療法を学んでいく。				
学生中に多くの治療法に触れることで将来の自分の臨床スタイルを方向付ける手がかりとすることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	ガイダンス	第16回	鍼通電療法⑥	
第2回	トリガーポイント①	第17回	鍼通電療法⑦	
第3回	トリガーポイント②	第18回	鍼通電療法⑧	
第4回	トリガーポイント③	第19回	鍼通電療法⑨	
第5回	トリガーポイント④	第20回	定期試験	
第6回	トリガーポイント⑤			
第7回	トリガーポイント⑥			
第8回	トリガーポイント⑦			
第9回	トリガーポイント⑧			
第10回	トリガーポイント⑨			
第11回	鍼通電療法①			
第12回	鍼通電療法②			
第13回	鍼通電療法③			
第14回	鍼通電療法④			
第15回	鍼通電療法⑤			
3 履修上の注意				
実技細則を厳守すること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
筋肉の起始・停止・支配神経・作用を復習し、授業に臨むこと。				
5 教科書				
6 参考書				
鍼通電療法テクニック 改定第3版(株医道の日本社)				
7 成績評価の方法				
①実技試験において60％以上を取得する。②卒業見込実技試験を合格をしている。③実技授業で課されるすべての課題を提出している。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床実習	鍼灸マッサージ治療院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床実習B		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
遠藤 好美		1単位	45時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
臨床実習は指導教員のもとで実際の治療現場を治療者として経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、患者さんのもつ諸問題を解決しながら適切な患者―治療者関係の構築をはかることを目的としている。はり師きゅう師の資格取得を目指す学生が到達すべき行動目標として、具体的に以下の内容を定め実習を実施する。また、一連の鍼灸臨床のプロセスを通して学生自身が「自分の問題点はどこにあるのか」「その問題点を解決するためには何を学習すればよいのか」「自己学習した結果、まだ何が足りないか」を考えながら学習をすすめる、それを解決する姿勢を身につけることが大切となる。				
〈到達目標〉				
臨床実習を経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、自身の問題点を発見し、それを解決する姿勢を身につけることを目標とする。また実際の臨床に際して安全な施術を行うための知識と技術を身に付けることも目標となる。				
2 授業内容				
第1回	臨床実習			
第2回	臨床実習			
第3回	臨床実習			
第4回	臨床実習			
第5回	臨床実習			
第6回	臨床実習			
第7回	臨床実習			
第8回	臨床実習			
第9回	臨床実習			
3 履修上の注意				
OSCEのすべての項目に合格していなければ参加を認めない。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
臨床実習においてはこれまで1-2年次に学習した内容がすべて必要となる。しっかり知識を身に付けて臨むこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
出席状況および授業への取り組み、診療録の内容、授業を通しての成長度、課題の提出状況などを元に総合的に評価する。				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床実習	鍼灸治療院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床実習C		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
遠藤 好美		1単位	45時間	実技
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
臨床実習は指導教員のもとで実際の治療現場を治療者として経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスをを行う中で、患者の持つ諸問題を解決しながら適切な患者－施術者関係の構築をはかることを目的としている。はり師きゅう師の資格取得を目指す学生が到達すべき行動目標として、具体的に以下の内容を定め実習を実施する。また、一連の鍼灸臨床のプロセスを通して学生自身が「自分の問題点はどこにあるのか」「その問題点を解決するためには何を学習すればよいのか」「自己学習した結果、まだ何が足りないか」を考えながら学習をすすめ、それを解決する姿勢を身につけることが大切となる。				
〈到達目標〉				
臨床実習を経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスをを行う中で、自身の問題点を発見し、それを解決する姿勢を身につけることを目標とする。また、臨床実技として美容鍼灸を学ぶとともに、実際の臨床に際して安全な施術を行うための知識と技術を身に付けることも目標となる。				
2 授業内容				
第1回	臨床実習			
第2回	臨床実習			
第3回	臨床実習			
第4回	臨床実習			
第5回	臨床実習			
第6回	臨床実習			
第7回	臨床実習			
第8回	臨床実習			
第9回	臨床実習			
3 履修上の注意				
見学実習では必ずメモをとり、実際の臨床現場と同様に真剣に取り組むこと。患者対応に不備がないように心掛けること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
臨床実習においては、これまで1-2年次に学習した内容がすべて必要となる。しっかり知識見直して臨むこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
出席状況および授業への取り組み、診療録の内容、授業を通しての成長度、課題の提出状況、身だしなみなどを元に総合的に評価する。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床実習	鍼灸整骨院の実務経験 訪問治療、スポーツトレーナーの実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床実習D		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
遠藤 好美		1単位	45時間	実技
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
臨床実習は指導教員のもとで実際の治療現場を治療者として経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスをを行う中で、患者の持つ諸問題を解決しながら適切な患者－施術者関係の構築をはかることを目的としている。はり師きゅう師の資格取得を目指す学生が到達すべき行動目標として、具体的に以下の内容を定め実習を実施する。また、一連の鍼灸臨床のプロセスを通して学生自身が「自分の問題点はどこにあるのか」「その問題点を解決するためには何を学習すればよいのか」「自己学習した結果、まだ何が足りないか」を考えながら学習をすすめ、それを解決する姿勢を身につけることが大切となる。				
〈到達目標〉				
臨床実習を経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスをを行う中で、自身の問題点を発見し、それを解決する姿勢を身につけることを目標とする。また、臨床実技として美容鍼灸を学ぶとともに、実際の臨床に際して安全な施術を行うための知識と技術を身に付けることも目標となる。				
2 授業内容				
第1回	臨床実習			
第2回	臨床実習			
第3回	臨床実習			
第4回	臨床実習			
第5回	臨床実習			
第6回	臨床実習			
第7回	臨床実習			
第8回	臨床実習			
第9回	臨床実習			
3 履修上の注意				
見学実習では必ずメモをとり、実際の臨床現場と同様に真剣に取り組むこと。患者対応に不備がないように心掛けること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
臨床実習においては、これまで1-2年次に学習した内容がすべて必要となる。しっかり知識見直して臨むこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
出席状況および授業への取り組み、診療録の内容、授業を通しての成長度、課題の提出状況、身だしなみなどを元に総合的に評価する。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	総合領域	鍼灸院の実務経験、 中学・高校の部活動のトレーナーの実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
専門科目B		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
町田 良太		2単位	40時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
近年の競技スポーツの世界では年々高度な技術が要求されるようになり、中高生のうちから早期の技術習得を求められているため、競技者は肉体的・精神的ストレスにさらされることが多くなった。また、高齢社会にあって多くの人が健康維持のためにスポーツに参加している状況もある。このようなスポーツの質的向上と量的拡大の結果として、スポーツ外傷や障害に悩む患者が増えているのが現状である。 この講義では「東洋医学臨床論」の教科書に記載されているスポーツ外傷・障害を中心に、臨床で遭遇しやすいスポーツ外傷・障害の概要とその処置法について学習する。				
〈到達目標〉				
鍼灸治療による処置法だけではなく、テーピングやストレッチといったスポーツ現場で実践できる技術を身に付け、スポーツ現場で活躍することが出来る鍼灸師の育成、また患者・選手の状態が十分に評価でき、最適な医療を提供できるようになることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	アスレティックトレーナーについてスポーツと鍼灸師との関わりについて	第16回	各論 下肢帯・下肢スポーツ障害・外傷について	
第2回	応急処置	第17回	各論 上肢帯・上肢スポーツ障害・外傷について	
第3回	応急処置	第18回	各論 上肢帯・上肢スポーツ障害・外傷について	
第4回	テーピング概論・実技	第19回	各論 上肢帯・上肢スポーツ障害・外傷について	
第5回	テーピング実技	第20回	定期試験	
第6回	テーピング実技			
第7回	ストレッチ			
第8回	ストレッチ			
第9回	リコンディショニング			
第10回	リコンディショニング			
第11回	各論 体幹部スポーツ障害・外傷について			
第12回	各論 体幹部スポーツ障害・外傷について			
第13回	各論 体幹部スポーツ障害・外傷について			
第14回	各論 下肢帯・下肢スポーツ障害・外傷について			
第15回	各論 下肢帯・下肢スポーツ障害・外傷について			
3 履修上の注意				
実際の現場で活動しているつもりで、緊張感をもって積極的に臨むこと				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業内容をしっかり理解する目的で予習を行い、授業内容をしっかり定着させる目的で復習を行うこと				
5 教科書				
6 参考書				
鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法				
7 成績評価の方法				
出席 試験 授業への取り組み				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	総合領域	開業鍼灸師の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
専門科目C		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
木下 立彦		1単位	20時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
超高齢社会の到来に伴い鍼灸師が高齢者の施術にあたる期会は増加しており、今後さらに増えていくものと思われる。 この講義では高齢者の身体的特徴・心理的背景・社会的背景を理解するとともに高齢者特有の疾患の特徴とその治療法について学び、高齢者に対する鍼灸臨床の特性を理解することを目指す。また、鍼灸臨床に必要なトランスファー技術など、実際に高齢者の施術を行う際に必要な技能を身に付けることも目標である。				
〈到達目標〉				
この講義では高齢者の身体的特徴・心理的背景・社会的背景を理解するとともに高齢者特有の疾患の特徴とその治療法について学び、高齢者に対する鍼灸臨床の特性を理解することを目指す。また、鍼灸臨床に必要なトランスファー技術など、実際に高齢者の施術を行う際に必要な技能を身に付けることも目標である。				
2 授業内容				
第1回	高齢者の特徴①			
第2回	高齢者の特徴②			
第3回	高齢者の特徴③			
第4回	高齢者の特徴④			
第5回	高齢者の特徴⑤			
第6回	介護保険①			
第7回	介護保険②			
第8回	介護保険③			
第9回	介護保険④			
第10回	介護保険⑤			
第11回	トランスファー①			
第12回	トランスファー②			
第13回	トランスファー③			
第14回	まとめ①			
第15回	課題試験			
3 履修上の注意				
私語は慎む。携帯電話・スマートフォン・飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業内で確認テストを適宜行う予定。				
5 教科書				
6 参考書				
東洋医学臨床論（東洋療法学校協会編） 衛生学・公衆衛生学（東洋療法学校協会編）				
7 成績評価の方法				
1、定期試験が60％以上で単位認知とする				
2、出席状況・授業態度を「1」の点数に加味することがある				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	総合領域	鍼灸治療院、鍼灸整骨院、整骨院での実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
専門科目D		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
野坂 裕美		2単位	40時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
解剖学を鍼灸施術と関連させることで、鍼灸施術においてより重要となる部分、危険部位等を再確認し、鍼灸施術をより正確で安全な臨床を行えるようにすることを目的とする。				
〈到達目標〉				
鍼灸臨床で直接的に関わる①筋骨格系②神経系③脈管系を取り上げ、経穴の部位の再確認や危険部位を関連させながら学ぶことで知識の定着をはかり、より正確で安全な鍼灸施術が行えるようにすることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	上肢の鍼灸解剖と危険経穴①	第16回	腰背部の鍼灸解剖と危険経穴①	
第2回	上肢の鍼灸解剖と危険経穴②	第17回	腰背部の鍼灸解剖と危険経穴②	
第3回	上肢の取穴練習	第18回	腰背部の取穴練習	
第4回	下肢の鍼灸解剖と危険経穴①	第19回	後半総復習	
第5回	下肢の鍼灸解剖と危険経穴②	第20回	・全体総復習・鍼灸の有害事象例について	
第6回	下肢の取穴練習			
第7回	頭頸部の鍼灸解剖と危険経穴			
第8回	頭頸部の取穴練習			
第9回	前半総復習			
第10回	気胸に対するリスク管理			
第11回	顔面部の鍼灸解剖と危険経穴			
第12回	顔面部の取穴練習 肩背部の取穴練習(気胸に対するリスク管理)			
第13回	前胸部・腹部の鍼灸解剖と危険経穴①			
第14回	前胸部・腹部の鍼灸解剖と危険経穴②			
第15回	前胸部・腹部の取穴練習			
3 履修上の注意				
学則に従い受講すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
前回の授業内容を復習すること				
5 教科書				
6 参考書				
鍼灸安全対策マニュアル				
危険経穴の断面解剖アトラス				
7 成績評価の方法				
2回の定期試験(定期試験 1 および定期試験 2)において、それぞれ60％以上の成績を合格とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

鍼灸学校教員資格

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	総合領域	鍼灸治療院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
専門科目E		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
野口 智立、鈴木 誠、金 世野、佐々木 慎司		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
鍼灸臨床で遭遇する患者に対し適切な施術ができるように西洋医学の内容を全般的に学習する。本講義では、人体の正常な構造と機能を理解するために解剖学、生理学、病的な状態や具体的な疾患や検査を理解するために病理学、臨床医学総論、臨床医学各論、リハビリテーション医学、その他として医療概論、関係法規、公衆衛生学も含めて、鍼灸臨床に必要なとなる総合的な知識の確認を行う。				
〈到達目標〉				
基礎科目から応用科目に総合的に理解をし、鍼灸臨床において必要な知識を身に着ける。				
2 授業内容				
第1回	基礎医学系の復習	第16回	臨床医学各論総復習③	
第2回	基礎医学系の復習	第17回	医療概論①	
第3回	基礎医学系の復習	第18回	臨床医学各論総復習④	
第4回	基礎医学系の復習	第19回	臨床医学各論総復習⑤	
第5回	基礎医学系の復習	第20回	医療概論②	
第6回	病理学①病因、循環障害、病変	第21回	リハビリテーション総復習①	
第7回	臨床医学総論総復習①	第22回	衛生学①	
第8回	病理学②炎症、免疫異常とアレルギー	第23回	リハビリテーション総復習②	
第9回	関係法規①	第24回	衛生学②	
第10回	臨床医学総論総復習②	第25回	リハビリテーション総復習③	
第11回	病理学③腫瘍、先天異常	第26回	衛生学③	
第12回	関係法規②	第27回	リハビリテーション総復習④	
第13回	臨床医学各論総復習①	第28回	衛生学④	
第14回	臨床医学各論総復習②	第29回	リハビリテーション総復習⑤	
第15回	関係法規③	第30回	衛生学⑤	
3 履修上の注意				
私語は慎む。携帯電話や飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業の予習・復習を必ず行い受講すること。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
成績は卒業見込試験の成績に代える。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	総合領域	リハビリ施設の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
専門科目F		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
高松 巧、菅谷 匡美、阿部 好史、木下 立彦		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
東洋医学概論、経絡経穴概論、東洋医学臨床論、鍼灸診察学、はりきゅう理論で学んだ東洋医学に関する知識を統合し、実際の患者を想定した演習を繰り返す行う。				
〈到達目標〉				
鍼灸臨床で実践できる東洋医学の知識として理解を深めることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	はき理Ⅱ：鍼灸の治療的作用、生体防御機構	第16回	東概(東医臨)：問題演習＆解説②	
第2回	はき理Ⅱ：鍼の血流に及ぼす影響、関連学説	第17回	経穴：横並び経穴	
第3回	東概：四診概要	第18回	東概：問診	
第4回	はき理Ⅱ：関連学説	第19回	東概(東医臨)：問題演習＆解説③	
第5回	東概：望診	第20回	経穴：上下肢、胸腹部、腰部横並び	
第6回	はき理Ⅱ：問題演習	第21回	東概：問診	
第7回	経穴：流注・概論	第22回	はき理Ⅰ：鍼の基礎知識	
第8回	東概：聞診	第23回	東概(東医臨)：問題演習＆解説③	
第9回	東概：聞診	第24回	経穴：足部・手部、頭顔面部	
第10回	東概：問診	第25回	東概：切診	
第11回	東概：問診	第26回	はき理Ⅰ：灸の基礎知識、鍼灸の臨床応用	
第12回	東概：問診	第27回	東概(東医臨)：問題演習＆解説④	
第13回	東概(東医臨)：問題演習＆解説①	第28回	経穴：問題演習	
第14回	経穴：奇経八脈、同じ高さの経穴	第29回	東概：切診	
第15回	東概：問診	第30回	はき理Ⅰ：リスク管理	
3 履修上の注意				
私語は慎む。携帯電話や飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業の予習・復習を必ず行い受講すること。				
5 教科書				
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
経穴番付の得点率が90％以上の者に、卒業見込試験の受験資格を与える。				
成績は卒業見込試験の成績に代える。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				